１．人口

1-01　人口規模
1-02　ＤＩＤ
1-03　将来人口
1-04　人口増減
1-05　通勤・通学移動
1-06　昼間人口

調査項目：1-01　人口規模

■調査目的　　人口規模の状況を区域別、年齢階級別（５歳)、性別に把握する。

■収集方法

【ａ収集項目】　年齢階級別（５歳）人口、性別人口

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　町丁目単位（小地域単位)、メッシュ単位（４分の１地域メッシュ）
※総務省統計局からメッシュ単位（４分の１地域（250m）メッシュ単位）のデータも収集可能。
※年齢階級別（５歳）人口は、町丁目単位（小地域単位）のみ収集可能。

【ｄ収集方法】　・国勢調査、総務省統計局から収集。

収集データの例
国勢調査／（小地域別）年齢（5 歳階級、4 区分）別、男女別人口（2020） https://www.e-stat.go.jp/gis/statmapsearch?page=1&type=1&toukeiCode=00200521&toukeiYear=2020&aggregateUnit=A&serveyId=A002005212020&statsId=T001082（URL❶）
総務省統計局／（メッシュ単位）人口及び世帯 https://www.e-stat.go.jp/gis/statmapsearch?page=1&type=1&toukeiCode=00200521&toukeiYear=2020&aggregateUnit=Q&serveyId=Q002005112020&statsId=T001102&datum=2000（URL❷）

【ｅ留意事項】　・小地域別データは統計調査を実施するために設定された基本単位区の境域を基礎としており、住居表示等に用いられている町丁・字境界・名称と一致しない場合があることに注意が必要。
・国勢調査の就業状態等基本集計において、都市計画の区分による人口・世帯数（総数）が公表されている。
・GIS データについては、平成７年度以降は世界測地系データが収集可能であり、世界測地系のデータを活用する。

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
小地域別人口	国勢調査／（小地域別）年齢（5 歳階級、4 区分）別、男女別人口	最新年を記載	URL❶
メッシュ単位人口	総務省統計局／（メッシュ単位）人口及び世帯	最新年を記載	URL❷

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先が URL の場合は d.収集方法の「収集データの例」の URL を参照。

【ｇ調書】

＜調書＞

○小地域人口

（○○年国勢調査をもとに作成）

小地域コード	総数、年齢不詳含む（人）	総数 0-4歳（人）	…	総数 75歳以上（人）	男の総数、年齢不詳含む（人）	男 0-4歳（人）	…	男 75歳以上（人）	女の総数、年齢不詳含む（人）	女 0-4歳（人）	…	女 75歳以上（人）
1												
2												
:												

○メッシュ単位（４分の１地域（250m）メッシュ単位）人口

（○○年国勢調査をもとに作成）

メッシュコード	総数（人）	総数男（人）	…	0～14歳人口（人）	0～14歳人口男（人）	0～14歳女（人）	…	男75歳以上（人）	女75歳以上（人）		…	一般世帯数
1												
2												
:												

＜コードリスト＞

○小地域別人口

コード	説明
0101	総数、年齢「不詳」を含む
0102	総数0-4歳
0103	総数5-9歳
0104	総数10-14歳
0105	総数15-19歳
0106	総数20-24歳
0107	総数25-29歳
0108	総数30-34歳
0109	総数35-39歳
0110	総数40-44歳
0111	総数45-49歳
0112	総数50-54歳
0113	総数55-59歳
0114	総数60-64歳
0115	総数65-69歳
0116	総数70-74歳
0117	総数15歳未満
0118	総数15～64歳
0119	総数65歳以上
0120	総数75歳以上
2101	男性総数、年齢「不詳」を含む
2102	男性0-4歳
2103	男性5-9歳
2104	男性10-14歳
2105	男性15-19歳
2106	男性20-24歳
2107	男性25-29歳
2108	男性30-34歳
2109	男性35-39歳
2110	男性40-44歳
2111	男性45-49歳
2112	男性50-54歳
2113	男性55-59歳
2114	男性60-64歳
2115	男性65-69歳
2116	男性70-74歳
2117	男性15歳未満
2118	男性15～64歳
2119	男性65歳以上
2120	男性75歳以上
3101	女性総数、年齢「不詳」を含む
3102	女性0-4歳
3103	女性5-9歳
3104	女性10-14歳
3105	女性15-19歳
3106	女性20-24歳
3107	女性25-29歳
3108	女性30-34歳
3109	女性35-39歳
3110	女性40-44歳
3111	女性45-49歳
3112	女性50-54歳
3113	女性55-59歳
3114	女性60-64歳
3115	女性65-69歳
3116	女性70-74歳
3117	女性15歳未満
3118	女性15～64歳
3119	女性65歳以上
3120	女性75歳以上

○メッシュ単位人口

コード	説明
0201	人口（総数）
0202	人口（総数）　男
0203	人口（総数）　女
0204	０～１４歳人口　総数
0205	０～１４歳人口　男
0206	０～１４歳人口　女
0207	１５歳以上人口　総数
0208	１５歳以上人口　男
0209	１５歳以上人口　女
0210	１５～６４歳人口　総数
0211	１５～６４歳人口　男
0212	１５～６４歳人口　女
0213	１８歳以上人口　総数
0214	１８歳以上人口　男
0215	１８歳以上人口　女
0216	２０歳以上人口　総数
0217	２０歳以上人口　男
0218	２０歳以上人口　女
0219	６５歳以上人口　総数
0220	６５歳以上人口　男
2201	６５歳以上人口　女
2202	７５歳以上人口　総数
2203	７５歳以上人口　男
2204	７５歳以上人口　女
2205	８５歳以上人口　総数
2206	８５歳以上人口　男
2207	８５歳以上人口　女
2208	９５歳以上人口　総数
2209	９５歳以上人口　男
2210	９５歳以上人口　女
2211	外国人人口　総数
2212	外国人人口　男
2213	外国人人口　女
2214	世帯総数
2215	一般世帯数
2216	１人世帯数　一般世帯数
2217	２人世帯数　一般世帯数
2218	３人世帯数　一般世帯数
2219	４人世帯数　一般世帯数
2220	５人世帯数　一般世帯数
3201	６人世帯数　一般世帯数

【ｈ位置図】

＜人口分布図＞

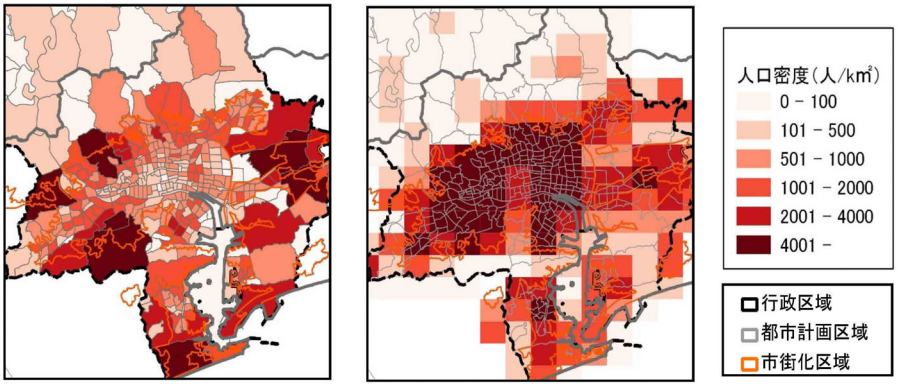
・人口分布図は、原則、原典データ（例：小地域境界データまたは、メッシュ境界データ）の縮尺によるが、適宜地形図を背景に作成する。

・小地域単位・メッシュ単位（4 分の 1 地域メッシュ（250m メッシュ）単位）の境界データをもとに、人口密度の区分に応じて色分けするとともに、都市計画区域や市街化区域、行政区域等をあわせて表示して図面を作成する。

＜凡例＞

・人口分布図凡例（下表）に従い、小地域毎またはメッシュ毎に着色する。

（令和○○年国勢調査　男女別・年齢階級（５歳階級）別人口をもとに作成）



※立地適正化計画が策定されている場合は、立地適正化計画の各区域も併せて表示する。

【ｉ集計表】

・都市計画の区分別に男女別・年齢階級（５歳階級）別にとりまとめる。

・集計は、小地域データの活用を基本とし、小地域の境界が区域区分の境界と合致しない場合については、国勢調査時の区分による方法や、面積、可住地、建物数、世帯数等により按分する方法により適宜分割し集計する。

（令和○○年国勢調査　男女別・年齢階級（５歳階級）別人口をもとに作成）

区域区分	総数、年齢不詳含む（人）	総数 0-4歳（人）	…	総数 75歳以上（人）	男の総数、年齢不詳含む（人）	男 0-4歳（人）	…	男 75歳以上（人）	女の総数、年齢不詳含む（人）	女 0-4歳（人）	…	女 75歳以上（人）
行政区域												
都市計画区域												
市街化区域												
市街化調整区域												
非線引き用途地域												
非線引き用途白地												
準都市計画区域												
都市計画区域外												
居住誘導区域												
都市機能誘導区域												

※区域区分の有無により、市街化区域及び市街化調整区域、非線引き用途地域及び非線引き用途白地のうち、必要な区域を記載する。

※準都市計画区域が指定されている場合において「都市計画区域外」は「都市計画区域又は準都市計画区域の外」と読み替える。

※立地適正化計画の各区域は立地適正化計画が策定されている場合。

※原典データの調査年次は西暦に統一する。

調査項目：1-02　ＤＩＤ

■調査目的　　市街地の動向を経年的に把握するために、人口集中地区（ＤＩＤ）の変遷を調べる。

■収集方法

【ａ収集項目】　位置、面積、人口

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　ＤＩＤ地区毎

【ｄ収集方法】　・国勢調査、国土数値情報から収集。

収集データの例
国勢調査／男女別人口，世帯の種類別世帯数及び世帯人員並びに 2015 年（平成 27 年）の人口（組替），2015 年（平成 27 年）の世帯数（組替），5 年間の人口増減数，5 年間の人口増減率，5 年間の世帯増減数，5 年間の世帯増減率，人口性比，面積（参考）及び人口密度－全国，都道府県，市区町村（人口集中地区） https://www.e-stat.go.jp/statsearch/ files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001136464&cycle=0&year=20200&month=24101210&tclass1=000001136466&tclass2val=0（URL❶）
国土数値情報／人口集中地区データ※ https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-A16-v2_3.html（URL❷）

※国土数値情報では、DID 区域（1960～）のポリゴンデータを入手可能である。

【ｅ留意事項】　－

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
面積	国勢調査／男女別人口，世帯の種類別世帯数及び世帯人員並びに 2015 年（平成 27 年）の人口（組替），2015 年（平成 27 年）の世帯数（組替），5 年間の人口増減数，5 年間の人口増減率，5 年間の世帯増減数，5 年間の世帯増減率，人口性比，面積（参考）及び人口密度－全国，都道府県，市区町村（人口集中地区）	最新年を記載	URL❶
人口	国勢調査／男女別人口，世帯の種類別世帯数及び世帯人員並びに 2015 年（平成 27 年）の人口（組替），2015 年（平成 27 年）の世帯数（組替），5 年間の人口増減数，5 年間の人口増減率，5 年間の世帯増減数，5 年間の世帯増減率，人口性比，面積（参考）及び人口密度－全国，都道府県，市区町村（人口集中地区）	最新年を記載	URL❶

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先が URL の場合は d.収集方法の「収集データの例」の URL を参照。

【ｇ調書】

〈調書〉

（○○年国勢調査　DID地区境界データをもとに作成）

地区	面積（ha）	人口（人）	人口密度（人/ha）	年	備考
:					

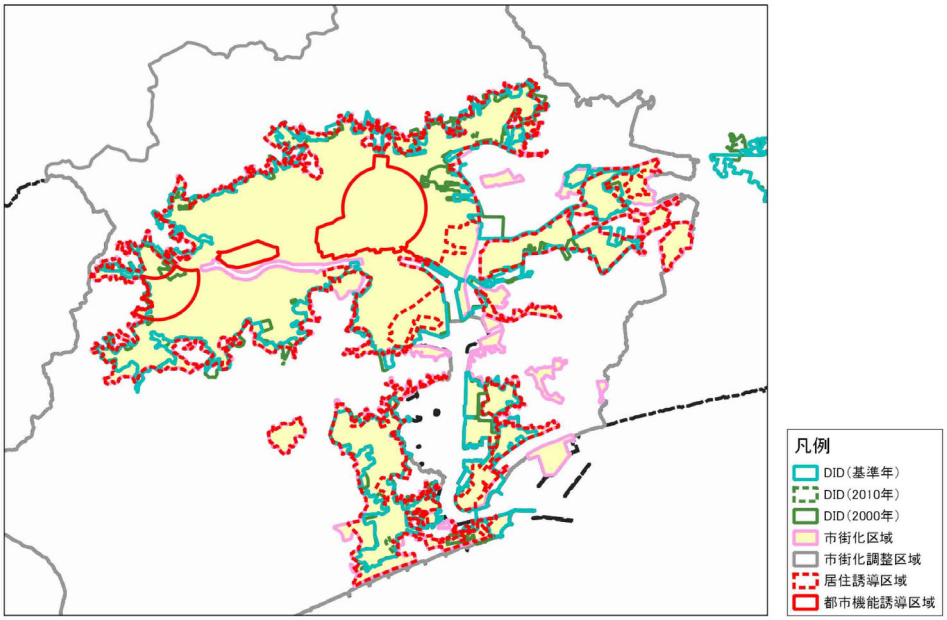
【ｈ位置図】

＜位置図＞

・ＤＩＤ地区の区域ごとに、ＤＩＤ区域ポリゴンを地図上に表示する。
（作成イメージは下図を参照）

・ＤＩＤ地区の拡大状況を把握するため、概ね 10 年ごとの区域の状況を表示する。

（○○年国勢調査　DID地区境界データを基に作成）



＜凡例＞

・ＤＩＤ位置図凡例（下表）に従い、区域毎に着色する。

区域分類	面 色指定（RGB）	縁 色指定（RGB）	線の太さ
都市計画区域	なし	150,150,150	太線・実線
市街化区域（非線引き用途地域）	255,250,190	255,160,230	太線・実線
10年前のDID人口（H12）	なし	70,140,60	太線・実線
5年前のDID人口（H22）	なし	70,140,60	太線・破線
DID人口（基準年）	なし	0,190,190	太線・実線
居住誘導区域	なし	255,0,0	太線・破線
都市機能誘導区域	なし	255,0,0	太線・破線

（太線：1.0pt　細線：0.5pt）

【ｉ集計表】　－

調査項目：1-03　将来人口

■調査目的　　今後の人口の推移を予測し、都市計画のフレーム把握の基礎資料とする。

■収集方法

【ａ収集項目】　年齢階級別（５歳）人口、性別人口

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　行政区域毎

【ｄ収集方法】　・日本の地域別将来推計人口〔国立社会保障・人口問題研究所〕から収集。

収集データの例
国立社会保障・人口問題研究所／日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年推計）男女･年齢（5歳）階級別の推計結果一覧 https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/t-page.asp（URL❶）

【ｅ留意事項】　・公表されている将来30年間のデータを収集する。
・推計による市区町村の人口の合計は『日本の将来推計人口』の出生中位・死亡中位、純移動考慮で推計。

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
年齢階級（５歳）人口	国立社会保障・人口問題研究所／日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年推計）男女･年齢（5歳）階級別の推計結果一覧	最新年を記載	URL❶
性別人口	国立社会保障・人口問題研究所／日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年推計）男女･年齢（5歳）階級別の推計結果一覧	最新年を記載	URL❶

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先がURLの場合はd.収集方法の「収集データの例」のURLを参照。

【ｇ調書】　－

【ｈ位置図】　－

【ｉ集計表】

・年齢階級別（5歳）に将来人口をとりまとめる。
（日本の地域別将来推計人口（○○年推計）〔国立社会保障・人口問題研究所〕年齢別男女別将来人口をもとに作成）

（日本の地域別将来推計人口（○○年推計）〔国立社会保障・人口問題研究所〕年齢別男女別将来人口をもとに作成）

		○年			○年			…
		総数(人)	男(人)	女(人)	総数(人)	男(人)	女(人)	
総数								
年齢階級別	0-4歳							
	5-9歳							
	10-14歳							
	：							

＜コードリスト＞

・集計表の各項目のコードは下表のとおりとする。

コード	説明
0101	総数
0102	0-4歳
0103	5-9歳
0104	10-14歳
0105	15-19歳
0106	20-24歳
0107	25-29歳
0108	30-34歳
0109	35-39歳
0110	40-44歳

0111	45-49歳
0112	50-54歳
0113	55-59歳
0114	60-64歳
0115	65-69歳
0116	70-74歳
0117	15歳未満
0118	15～64歳
0119	65歳以上
0120	75歳以上

コード	説明
T	総数
M	男性
F	女性

調査項目：1-04　人口増減

■調査目的　　人口増減の状況を自然動態・社会動態別に経年的に把握し、人口の変化を要因別に調べる。

■収集方法

【ａ収集項目】　自然増減（出生数、死亡者数）、社会増減（転入者数、転出者数、その他増減）

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　行政区域毎

【ｄ収集方法】　・出生数及び死亡数は人口動態調査から、転入者数・転出者数は住民基本台帳人口移動報告から収集。
・新潟県人口移動調査結果報告書から出生数及び死亡数、転入者数・転出者数から収集することができる。

収集データの例
人口動態調査／人口動態総覧（件数），都道府県・市部－郡部－保健所－市区町村別（都道府県・市区町村）（2006 年～） https://www.e-stat.go.jp/statsearch/database?page=1&layout=datalist&toukei=00450011&tstat=000001028897&cycle=7&tclass1=000001053058&tclass2=000001053061&tclass3=000001053063&tclass4val=0（URL❶）
住民基本台帳人口移動報告／男女別都道府県内移動者数，他都道府県からの転入者数及び他都道府県への転出者数－全国，都道府県，３大都市圏（東京圏，名古屋圏，大阪圏），21 大都市（移動者，日本人移動者，外国人移動者）（2021 年１月～） https://www.e-stat.go.jp/statsearch/database?page=1&layout=datalist&toukei=00200523&tstat=000000070001&cycle=1&tclass1=000001008739&tclass2val=0（URL❷）
新潟県人口移動調査結果報告書（平成６年～） https://www.pref.niigata.lg.jp/site/tokei/0722350.html（URL❸）

【ｅ留意事項】　・住民基本台帳データを用い、小地域単位での人口動態の把握を行うことも考えられる。
・「その他増減」は、職権による消除・修正や国籍取得・帰化等。

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
自然増減	人口動態調査	最新年を記載	URL❶
	新潟県人口移動調査結果報告書	最新年を記載	URL❸
社会増減	住民基本台帳	最新年を記載	URL❷
	新潟県人口移動調査結果報告書	最新年を記載	URL❸

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先が URL の場合は d.収集方法の「収集データの例」の URL を参照。

【ｇ調書】　－

【ｈ位置図】　－

【ｉ集計表】

＜集計表＞

・人口増減の要因別にとりまとめる。

（○○市（基準日：○○年○○月○○日現在））

人口増減要因	○年（人）	○年（人）	・・・
自然増減			
出生数			
死亡者数			
社会増減			
転入者数			
転出者数			
（その他増減※）			
人口増減計			

※「その他増減」は、職権による消除・修正や国籍取得・帰化等。

＜コードリスト＞

・集計表の各項目のコードは下表のとおりとする。

コード	説明
10	自然増減
11	出生数
12	死亡者数
20	社会増減
21	転入者数
22	転出者数
30	その他増減
40	人口増減計

調査項目：1-05　通勤・通学移動

■調査目的　　就業者、通学者の流出入状況を調査し、通勤・通学流動を把握する。

■収集方法

【ａ収集項目】　15 歳以上就業者、15 歳以上通学者

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　行政区域毎

【ｄ収集方法】　・国勢調査から収集。

収集データの例
国勢調査／男女，就業・通学，従業地・通学地（全国［総数］，都道府県，市区町村）別就業者・通学者数－全国，都道府県，市区町村（常住地） https://www.e-stat.go.jp/statsearch/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001136464&cycle=0&tclass1=000001136469&tclass2val=0（URL❶）

【ｅ留意事項】　－

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
15 歳以上就業者	国勢調査／男女，就業・通学，従業地・通学地（全国［総数］，都道府県，市区町村）別就業者・通学者数－全国，都道府県，市区町村（常住地）	最新年を記載	URL❶
15 歳以上通学者	国勢調査／男女，就業・通学，従業地・通学地（全国［総数］，都道府県，市区町村）別就業者・通学者数－全国，都道府県，市区町村（常住地）	最新年を記載	URL❶

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先が URL の場合は d.収集方法の「収集データの例」の URL を参照。

【ｇ調書】　－

【ｈ位置図】　－

【ｉ集計表】

（○○年国勢調査　常住地における就業・通学者数をもとに作成）

		従業地・通学地						常住地における就業・通学者数計
		県全体（人）	A市(人)	B市(人)	…	県外（人）	不詳（人）	
常住地	県全体							
	A市							
	B市							
	：							
	県外		－			－	－	
従業地における就業・通学者数計								

調査項目：1-06　昼間人口

■調査目的　　都市における昼間時の人口集積状況を地区ごとに把握する。

■収集方法

【ａ収集項目】　昼間人口

【ｂ収集範囲】　行政区域

【ｃ収集単位】　町丁目単位（小地域単位)、メッシュ単位（２分の１地域メッシュ単位）

【ｄ収集方法】　・国勢調査、経済センサス活動調査、学校ごとの在籍学生・生徒数の調査から収集
・有償データを利用する場合、Sinfonica 公益財団法人統計情報センター（https://www.sinfonica.or.jp/datalist/index.html）より購入することが可能。

収集データの例
国勢調査／従業地・通学地による人口・就業状態等集計（2020） https://www.e-stat.go.jp/statsearch/files?page=1&layout=datalist&toukei=00200521&tstat=000001080615&cycle=0&tclass1=000001101935&tclass2=000001101955&tclass3=000001101956　(URL❶)
国勢調査／（小地域別）職業大分類別就業者数（2020） https://www.e-stat.go.jp/gis/statmapsearch?page=1&type=1&toukeiCode=00200521&toukeiYear=2020&aggregateUnit=A&serveyId=A002005212020&statsId=T001104　(URL❷)
経済センサス-活動調査／（小地域別）産業（大分類）別民営事業所数及び男女別従業者数 https://www.e-stat.go.jp/gis/statmapsearch?page=1&type=1&toukeiCode=00200553&toukeiYear=2021&serveyId=A002005532021&aggregateUnit=A&statsId=T001167　(URL❸)
庁内資料等／学校ごとの在籍学生・生徒数の調査資料

【ｅ留意事項】　－

■作成項目

【ｆ原典リスト】

項目	原典データ	年次	入手先
昼間に通学も従業もしないもの	国勢調査/従業地・通学地による人口・就業状態等集計	最新年を記載	URL❶
昼間従業者数	国勢調査/（小地域別）職業大分類別就業者数	最新年を記載	URL❷
	経済センサス-活動調査/（小地域別）産業（大分類）別民営事業所数及び男女別従業者数	最新年を記載	URL❸
昼間通学者数	庁内資料等/学校ごとの在籍学生・生徒数の調査資料	最新年を記載	庁内資料

※複数の原典データを元に作成している場合は行を追加する。
※原典データの入手先が URL の場合は d.収集方法の「収集データの例」の URL を参照。

【ｇ調書】

＜調書の作成方法＞

・以下の式により小地域等の昼間人口を算定する。

昼間人口＝昼間従業者＋昼間通学者＋昼間に従業も通学もしない者

○昼間従業者

・経済センサス-活動調査から、町丁・字等別に従業者数（農林漁業従業者除く）を算出。町丁・字等ごとの従業者数構成比を求め、その比率で国勢調査の市区町村別昼間従業者数を按分して設定する。

○昼間通学者

・学校ごとの在籍者数・生徒数の調査から、町丁・字等別に通学者数を算出。町丁・字等ごとの通学者数構成比を求め、その比率で国勢調査の市区町村別昼間通学者数を按分して設定する。

○昼間に従業も通学もしない者

・国勢調査から以下により集計する。

昼間に従業も通学もしない者 ＝ 15歳以上就業も通学もしない者＋
15歳未満就業も通学もしない者＋ 農林漁業従業者

15歳以上就業も通学もしない者 ＝ 15歳以上非労働力人口－ 15歳以上通学者
＋ 完全失業者

15歳未満就業も通学もしない者 ＝ 未就学者数(全年齢)－ 15歳以上未就学児

○小地域別昼間人口

○○市調査(基準日：○○年○○月○○日)、令和○○年国勢調査、令和○○年経済センサスをもとに作成)

小地域コード	昼間従業者数（人）	昼間通学者数（人）	昼間に従業も通学もしないもの、15歳未満（人）	昼間に従業も通学もしないもの、15歳以上（人）	昼間に従業も通学もしないもの、農林漁業従業者（人）	昼間に従業も通学もしないもの、合計（人）	総数（昼間人口）（人）	人口密度（昼間人口）（人/㎢）
1								
2								
3								
:								

○メッシュ単位（２分の１地域メッシュ単位）昼間人口

○○市調査(基準日：○○年○○月○○日)、令和○○年国勢調査、令和○○年経済センサスをもとに作成)

メッシュコード	昼間従業者数（人）	昼間通学者数（人）	昼間に従業も通学もしないもの、15歳未満（人）	昼間に従業も通学もしないもの、15歳以上（人）	昼間に従業も通学もしないもの、農林漁業従業者（人）	昼間に従業も通学もしないもの、合計（人）	総数（昼間人口）（人）	人口密度（昼間人口）（人/㎢）
1								
2								
3								
:								

＜国勢調査に基づく算出例＞

○町丁・字等別昼間従業者（ｄ）

		国勢調査従業地・通学地集計　従業地・通学地による人口・産業等集計	経済センサス-基礎調査
		常住地又は従業地による産業(大分類)，男女別15歳以上就業者数(雇用者－特掲）－全国，都道府県，市町村	経営組織（２区分），産業（大分類）・従業者規模（６区分）別全事業所数及び男女別従業者数―市区町村，町丁・大字
従業者数総数 (a)		112,974	118,174
A 農業，林業＋　B 漁業 (b)		192	38
非農林漁業　(c) =(a)-(b)		112,782	118,136
小地域別従業者数(d) =(c)×経済センサス等の町丁・字等ごとの従業者数構成比	○○一丁目	1,839	1920
	○○二丁目	856	894
	○○三丁目	942	983
	○○四丁目	448	468
	:	990	1034

○町丁・字等別昼間通学者（ｆ）

		国勢調査従業地・通学地集計　従業地・通学地による人口・産業等集計	学校ごとの在籍学生・生徒数の調査
		従業地・通学地による常住市区町村，男女別15歳以上就業者数及び15歳以上通学者数(15歳未満通学者を含む通学者－特掲）－都道府県，市町	小学校＋中学校＋高等学校　全日制・定時制＋特別支援学校＋専修学校＋各種学校
区市町村別昼間通学者数 (e)		14,412	15,600
小地域別従業者数(f) =(e)×学校基本調査による町丁・字等ごとの通学者数構成比	○○一丁目	432	468
	○○二丁目	144	156
	○○三丁目	0	0
	○○四丁目	0	0
	:	216	234

○昼間に従業も通学もしないもの（小地域単位）（ｑ）

	項目		人数	国勢調査データ項目
15歳以上就業も通学もしない者 (l)	15歳以上非労働力人口 (g)		380	常住地による従業地・通学地（5区分），男女別15歳以上就業者数及び15歳以上通学者数 －町丁・字等
	15歳以上通学者 (h)		56	常住地による従業地・通学地（5区分），男女別15歳以上就業者数及び15歳以上通学者数 －町丁・字等
	完全失業者	労働力人口 (i)	968	住地による従業地・通学地（5区分），男女別15歳以上就業者数及び15歳以上通学者数 －町丁・字等
		常住地による15歳以上就業者数 (j)	903	常住地による従業地・通学地（5区分），男女別15歳以上就業者数及び15歳以上通学者数 －町丁・字等
		(k)=(i)-(j)	65	
	計 (l)=(g)-(h)+(k)		389	

※大規模調査年（西暦の末尾が 0 の年）の国勢調査でのみ実施

15歳未満就業も通学もしない者 (o)	未就学者数 (m)	44	在学学校・未就学の種類（7区分），男女別在学者数及び未就学者数 －町丁・字等 ※
	15歳以上未就学者 (n)	-	在学か否かの別・最終卒業学校の種類（6区分），男女別15歳以上人口 －町丁・字等
	計 (o)=(m)-(n)	44	

農林漁業従事者(p)	A農業，林業＋B漁業	1	産業(大分類)，男女別15歳以上就業者数 －町丁・字等

昼間に従業も通学もしないもの(q)=(l)+(o)+(p)	434

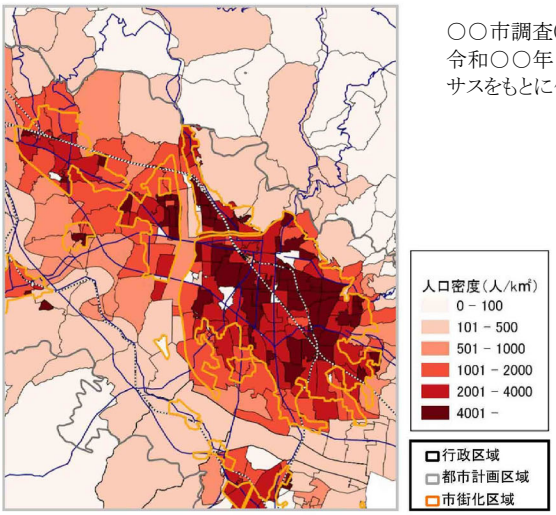
○小地域昼間人口 （ｒ）

小地域昼間人口 (r)=(d)+(f)+(q)	2,705

【ｈ位置図】

＜昼間人口分布図＞

・小地域またはメッシュ単位（2 分の 1 地域メッシュ（500m メッシュ））別に人口密度に応じて色分けするとともに、都市計画区域や市街化区域、行政区域等をあわせて表示して図面を作成する（作成イメージは下図を参照）。



○○市調査(基準日：○○年○○月○○日)、令和○○年国勢調査、令和○○年経済センサスをもとに作成)

【ｉ集計表】

区域区分	昼間 従業者数 （人）	昼間 通学者数 （人）	昼間に従業も通学もしないもの、15歳未満 （人）	昼間に従業も通学もしないもの、15歳以上 （人）	昼間に従業も通学もしないもの、農林漁業従業者 （人）	昼間に従業も通学もしないもの、合計 （人）	総数 （昼間人口） （人）	人口密度 （昼間人口） （人/㎢）
行政区域								
都市計画区域								
市街化区域								
市街化調整区域								
非線引き用途地域								
非線引き用途白地								
準都市計画区域								
都市計画区域外								
居住誘導区域								
都市機能誘導区域								

※区域区分の有無により、市街化区域及び市街化調整区域、非線引き用途地域及び非線引き用途白地のうち、必要な区域を記載する。
※準都市計画区域が指定されている場合において「都市計画区域外」は「都市計画区域又は準都市計画区域の外」と読み替える。
※立地適正化計画の各区域は立地適正化計画が策定されている場合。
※原典データの調査年次は西暦に統一する。